

緑ネット通信

No.66

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆
 年会費：1000円
 口座番号：00170-9-696174
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は「みどり」、特に樹木の保護・保全を願う人やグループと連携し、その輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

特別寄稿

関さんの森 報告とお礼 ～道路問題が解決～

関さんの森を育む会 関さんの森エコミュージアム 木下紀嘉

道路問題が解決

新設市道(迂回道路)が都市計画道路に

うれしいニュースのご報告です。関さんの森の道路問題が解決しました。8月30日、森に関わる都市計画変更の公示が松戸市によりなされました。

具体的には、今までの関さんの森を通る都市計画道路337号線(直線道路)の線形が廃止され、現在の新設市道(迂回道路)が都市計画道路になりました。

この道路問題については、2008年に強制収用の手続きが開始されるなど深刻化しましたが、翌2009年には暫定道路として屋敷の外側に迂回する新設市道を建設することで松戸市と合意。そして2012年に新設市道は開通しましたが、都市計画道路の直線の線形はそのまま残り、道路問題が完全に解決したとは言えない状況でした。しかしこの度、新設市道を都市計画道路とすることが公示され、関さんの屋敷の中を通る都市計画道路の線形が最終的に消えました。

それと同時に、旧都市計画道路用地を含む屋敷内の樹林地0.2ヘクタールが、都市緑地法に基づく「特別緑地保全地区」として指定されることも、公示されました。これにより、関さんの森では、指定済みの屋敷林を含め1.7ヘクタールが、開発の対象にならず、緑地として保存されることになりました。

以上、おかげ様で関さんの森に関わる道路変更の手続きは全て終了しました。

これまで多くの方々のご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

関さんの森を育む会、関さんの森エコミュージアム
 関美智子、関啓子



関家の自宅と屋敷林

直線道路が庭を左から右へ貫通する計画でした



道路は、関家の庭の外側を通る迂回道路に変更されました



関さんの森・略年表

1964	都市計画道路337号線 都市計画決定 その後関武夫氏を中心に、幸谷地区は地下道路にする運動を展開
1994	関武夫氏死去。関家は屋敷林1.1haを(公財)埼玉県生態系協会に寄付(1995)
1996	関さんの森を育む会誕生。屋敷林の維持管理を中心に多彩な活動を展開
2008	関さんの森エコミュージアム設立。松戸市が土地の強制収用手続き開始を発表。
2009	新設市道を関家屋敷の外側を迂回する案で松戸市と関家側が合意。
2010	道路用地の引き渡し及び緑地保全に関する覚書に調印。新設市道工事着工(2011)
2012	ケンポナシ移植。新設市道開通
2013	屋敷林及び関家屋敷内樹林地、1.5haが「特別緑地保全地区」に指定される。
2019	暫定道路であった新設市道(迂回道路)が都市計画道路になる。「特別緑地保全地区」が1.7haに拡大。

特別寄稿(つづき)

関さんの森 これから ～ エコミュージアム ～

みどりと歴史・文化

関さんの森エコミュージアムは、200年以上続く関家の屋敷や農地、屋敷林を「都市の里山」として位置づけ、自然観察や体験などを通じ、子どもから大人まで、遊び、学び、憩い、体験ができる場として、活用してきました。関さんの森には、みどり豊かな自然遺産だけでなく、江戸時代の門や蔵、古文書やむかしの生活道具などの歴史・文化遺産が今も大切に保存されています。とくに歴史・文化遺産については、古文書や蔵の調査により、それらが持つ重要性が高まっています。



エコミュージアムの推進

関さんの森は都市の里山として、今も松戸の原風景ともいえる姿を奇跡的に残しています。私たちはこの里山をそのままの姿で未来に残すためにはどうしたらよいか、長い間模索してきました。そしてようやくたどり着いたのが“エコミュージアム”という考えでした。

通常ミュージアムとは異なり、屋敷、門や蔵、農地、屋敷林、生活道具、古文書などが、いまある姿で人々の手に触れ、活用されることです。



“エコミュージアム”実現のため、みどりの維持・管理や活用を継続するとともに、歴史・文化遺産の保存活動にも注力しています。

これらの活動と予定イベントの例を以下紹介します。

◎保育園児・小学生の訪問

保育園児たちが、葛飾区や草加市から電車やマイクロバスに乗って、定期的に森にやってきます。毎回弁当持参で



森を楽しんだ園児は、“こんど森に行くのはいつ”と、待ち遠しそうに先生に聞くそうです。

また森の近くの幸谷

小や馬橋北小の生徒たちは、野外学習の一環として季節ごとに森にやって来て、いきものの観察やザリガニ釣りを楽しんでいます。木の葉を集めて持ち帰り、教材に使うことも。



◎自然観察会



季節毎に行っています。自然観察の他、森の所有者である関美智子さんから、自宅の庭や屋敷林を公開する想いや、都市部の

森を維持管理・保存することの難しさなどについて、話を聞きます。通常森の所有者と一般市民が身近に話す機会は余りありませんが、この観察会ではその貴重な機会を設けています。

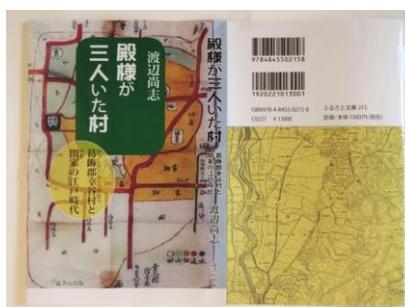
◎古文書の調査・保存活動

関家の蔵の中に長い間眠っていた古文書を調査・保存する目的で、2008年古文書の会が発足。埃を被った古文書を丁寧に掃除し、内容を読み込み、目録を作る作業が続き、纏めた文書は3,500点に及びました。



それらの成果をもとに、今までに発表会を2回開催し、また地元の「月刊新松戸」誌に毎月“蔵通信”を寄稿しており、今年10月号で91回となりました。

また古文書の調査・保存活動を永年指導してこられた一橋大学渡辺尚志教授が、2016年『殿様が三人いた村～葛飾郡幸谷村と関家の江戸時代～』と題する本を出版しました。関家古文書に書かれている事実から一冊の本が誕生したのです。



また森の近くの幸谷

◎門と蔵の再生・活用事業

関家の屋敷には、江戸時代に建てられた古い門や蔵が残されています。それらは経年劣化により、保存が大きな課題となっていました。そのため 2016 年「千葉県建築士会」から助成を受け、「門と蔵再生事業」がスタート、2019 年から「門と蔵活用事業」が始まりました。

事業では、新松戸周辺で活躍する建築士ボランティア 5 名が、毎月門と 3 つの蔵の使用材料や構造調査を行い、



図面の作成と建物の修復・保存の方法をまとめました。

また古民家再生の専門家である丸山純氏から、毎年 3 回の指導を受けて、門や蔵の保存や利活用方法の学習をしました。その手始めとして「雑蔵」の整備に取り組み、昔使われた生活道具や農機具などが展示できるようになりました。

◎“関さんの森ふるさとの集い” 蔵から見える昔の暮らし

当日は丸山純氏の案内で、整備中の蔵やその中にある昔の生活道具・古文書などを見たり体験したりします。

日時: 2019 年 11 月 17 日(日)10:00~14:30

場所: 松戸市幸谷 131 関家の屋敷・庭 (小雨実施)

JR 新松戸駅 徒歩 10 分、新京成バス「関さんの森」下車 2 分

内容: *丸山純氏の解説による「蔵から見える昔の暮らし」(古い門と蔵の説明、紙しばいなど)

*門や蔵めぐり、昔の生活道具・古文書の展示

*昔の遊び、絵本の読み聞かせ

*食べ物の販売(カヤの実パン等) 100 円/1 個

参加: 参加費無料、事前申込み不要

問い合わせ: 090-9156-4960 (木下)

関さんの森 これから

道路問題解決により門と蔵は今のまま保存され、森の 8 割が特別領地保全地区に指定されました。これからは屋敷林・梅林のみどりの活用に加え、門や蔵、古文書、昔の生活道具を整備し、歴史・文化遺産を見て、触れて、体験し、楽しむ場とする活動を目指します。この里山が市民の心のふるさとになることを願いつつ。

(木下紀嘉)

松戸のみどり再発見ツアー50

ヒガンバナ咲く里やま風景から 巨木の森へ

藤田 隆

9 月 18 日
水曜日、前日から曇りの天気模様で明けた当日、新京成線常盤平駅には 29 人の



参加者が集まりました。ひまわり公園で挨拶の後、祖光院まで徒歩。祖光院の裏手から境内に入るとヒガンバナの赤い姿が全く見えません。ヒガンバナの開花は皆無でした。同類の黄色、ピンクのリコリスがわずかに開花していました。

ヒガンバナを期待してきた参加者に申し訳ない思いで金ケ作自然公園に向かいました。こちらは公園全体の見通しを確保するための伐採が行われた後、台風 15 号の猛威でコブシが根こそぎ倒れていました。この公園にはケヤキ、スダジイ、シラカシ、タブノキなど胸高直径 1 m を超える大樹を観察しました。

公園から三吉の森へ向かう途中、道端にホトトギスが開花していました。三吉の森では会員の皆さんが臨時で活動していました。

三原代表から森の様子と活動の概要をお話いただき、森内を観察しました。ケヤキの巨木が文字通り凜として森を見守り、ムクノキ、コブシ、シラカシといった巨樹がスクスクと伸びていました。目を足元に向けるとカンアオイ、ノシラン、ヤブラン、ジャノヒゲが咲いていました。

ケヤキの前で「ハグしてみてください」とお誘いすると 5~6 人の方が両手を広げ、しっかりとケヤキを抱いていました。雨が本降りになり急ぎ足で広場に戻り、最後に感想を聞きました。



「ヒガンバナは未開花、途中から降雨」それでも「来てよかった！」と参加した 29 人ほぼ全員が手を挙げていただきました。

市内に残る貴重な樹林地、このまま次世代に渡していきたいと強く思いました。



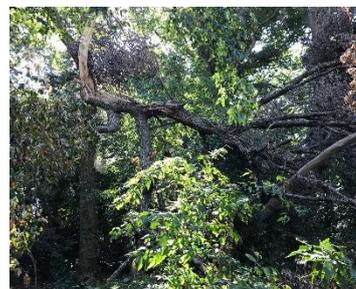
台風直撃で森にもかつてない被害

野口 功

台風 15 号、19 号による松戸の被害は、甚大な災害となった他市より小さかったとはいえ、ボランティアが活動する森にもかつてない被害をもたらしました。

特に、非赤枯性溝腐病で痛んだスギが、多数、幹の途中で折れていました（写真左上）。また、クヌギやケヤキなどの横に張り出した太い枝が、又から裂けて折れたものが何本もありました。小さな落枝は数知れず森中に散乱しています。幸い、住宅への被害はありませんでしたが、道路の交通の妨げも起きました。台風の翌朝、見て回りましたが、すでに近隣の方が処理して下さった所もあり、ありがたいことでした。

里やま応援団では、会単独では処理困難な被害木につ



いて、いくつかの森で協力して対処しました。左下の写真（秋山の森のクヌギ）は、折れた枝の先端部を切断してから、ロープで揺すり、折れた位置からちぎり落とすことができました。しかし、まだ処理方策が考えつかないものも残っています。安全に留意しながら、力を合わせてあせらずに解決していきたいと思います。

～しぜんのコラム 42～

キツリフネ

関さんのお庭に、ちょっと珍しい植物が生えている。キツリフネ（ツリフネソウ科）である。千葉県レッドリストでは「一般保護生物」として記載されている。植栽したものであるが、関さんのお庭が気に入っているらしく、かなり増えている。



キツリフネ 2019.10.6 千駄堀

キツリフネの学名は *Impatiens noli-tangere*。日本語に訳すと「がまんできないから私に触らないで」というような意味。熟した果実に触ると、果皮がパチンと弾け、種子が飛び散る。そう、ホウセンカも同じツリフネソウ科。ちなみに花言葉は「私に触らないで」のほか、「安楽」という言葉もある。

さて、キツリフネが生えている関さんのお庭。生えているのは不思議と都市計画道路の線上である。関さんの森の道路問題は、強制収用の危機もあったが、お庭のキツリフネも「私に触らないで」と主張しているようであった。

その後、道路は庭を迂回する形で作られ、このたび都市計画の変更により、庭に引かれた都市計画道路の線が完全に消えた。本当によかった。関さんの森を育む会にとっては、これからは道路問題を忘れて、森の維持管理や活用に専念できる。キツリフネにとっても、「私に触らないで」が終り、「安楽」が訪れたのである。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー51(観察学習会 70)

「紅葉の名所八柱霊園と ゆいの花公園で 秋の草花を楽しむ」

歴史ある八柱霊園は 隠れた紅葉のスポットです。色づいた木々を観察しながら ゆいの花公園へ歩きます。嘉納治五郎の霊廟や富士山の眺望にも期待。

11 月 27 日(水) 9:30~12:30 (雨天中止) 参加費 300 円 (会員は 100 円)

集合 新京成線 八柱駅 改札口 9:30 集合 持ち物 飲み物、雨具

問い合わせ 090-2935-9444 (高橋) その他 歩きやすい服装でどうぞ